

修士論文（要旨）

2021年1月

「アダルトチルドレン」傾向者の感情状態に及ぼす  
家族機能と自尊感情の影響

指導 久保 義郎 教授

心理学研究科  
健康心理学専攻

217J4053

恒川 督貴

Master's Thesis (Abstract)

January 2021

Effects of family functions and self-esteem on the emotional state of  
individuals with "adult children" tendencies

TSUNEKAWA, Yoshiki

217J4053

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: KUBO, Yoshio

## 目次

### 第1章：序論

1.1 アダルトチルドレンとは .....	1
1.2 アダルトチルドレン傾向者の問題.....	1
1.3 機能不全家族とアダルトチルドレン .....	2
1.4 自尊感情とアダルトチルドレン .....	3
1.5 本研究の目的 .....	3

### 第2章 方法

2.1 調査時期.....	4
2.2 対象者 .....	4
2.3 実施手続き .....	4
2.4 質問紙の構成 .....	4

### 第3章 結果

3.1 調査協力者の属性と分析 .....	5
3.2 本研究で使用した尺度の因子間の相関.....	5
3.3 アダルトチルドレン傾向と POMS2 の関連.....	5
3.4 家族機能尺度とアダルトチルドレン傾向尺度の関連.....	6
3.5 アダルトチルドレン傾向に及ぼす家族機能の影響と自尊感情の効果 .....	7

### 第4章 考察

4.1 本研究で明らかになったこと .....	13
4.2 アダルトチルドレン傾向者への心理学的支援 .....	13
4.3 アダルトチルドレンの分類.....	13
4.4 今後に向けて.....	14
4.5 結語.....	17

### 引用文献

### 資料

## 第1章 序論

いわゆる「アダルトチルドレン」(以下、ACと称する)は当初、「アルコール依存症の親のいる家庭で育った子ども」を指していた(柴田, 1998)。しかし、Claudia Blackは機能不全家庭で育った子どもを「Adult Children of Dysfunctional Family」と称したことから、これが現在、ACの定義として広く知られている(Woititz, 1990)。

AC者の心の問題はさまざまな形で現れるが、共通してみられるのは自尊感情の低さである。他にも様々な「生きづらさ」を感じているとされるが、この点についての客観的なデータは見当たらない。これ以外の点においても、ACについてはまだ実証的な研究は少ない。たとえば家族機能とAC傾向の関連について書かれた文献は散見されるものの、両者の関係は必ずしも十分に検証されているとはいえない。

心理療法の有効性について、Leary (1999)は「臨床的介入は自尊感情を高めることで心理的な問題を解決しようとしている」と述べており、心理療法でAC傾向が改善するのは自尊感情が高まるためと考えることもできる。

そこで、本研究ではAC者への支援の手がかりを得るために、次のことを目的とした。

- ① AC傾向と感情状態の関連について明らかにする。
- ② 家族機能とAC傾向の関連について明らかにする。
- ③ 家族機能とAC傾向における自尊感情の効果について明らかにする。

また、具体的な仮説は以下の通りである。

- ① AC傾向が高い(低い)とネガティブな感情は強く(弱く)、ポジティブな感情は弱い(強い)だろう。
- ② 家族機能が高い(低い)とAC傾向は低い(高い)だろう。
- ③ ②に加え、自尊感情が高い(低い)とAC傾向は低い(高い)だろう。

## 第2章 方法

本学の10歳代~20歳代の大学生、252名(男性60名、女性192名)を対象にWeb調査を行った。調査時期は2019年12月、および2020年6月であった。使用した尺度は次の通りである。

- ① 日本語版POMS2(横山, 2015):個人の感情状態を測定する尺度である。「不安-緊張」、「抑うつ-落ち込み」、「怒り-敵意」、「活気-活気-活力」、「疲労-無気力」、「混乱-当惑」の6因子、30項目から成っている。
- ② アダルトチルドレン傾向尺度(千葉ら, 2003):AC的傾向を測定する尺度である。「孤独感」、「自責」、「承認欲求」、「コントロール欲求」の4因子15項目から成っている。
- ③ 家族機能尺度(千葉ら, 2003):健康な家族変数を構成する項目31項目、「相互-個別性」、「凝集性」、「きまり」、「問題解決」、「コミュニケーション」の5因子から成っている。
- ④ 自尊感情尺度(山本ら, 1994; Rosenberg, 1965):自尊感情を測定する尺度である。10項目から成っている。

## 第3章 結果

仮説①について、AC傾向尺度の「孤独感」、「自責」は、POMS2の「AH 怒り-敵意」、

「CB 混乱・当惑」、「DD 抑うつ・落込み」、「FI 疲労・無気力」、「TA 緊張・不安」といったネガティブな感情に正の影響を示す一方でポジティブな感情である「VA 活気・活力」には負の影響が示され、仮説が支持されたと考えられる。

仮説②について、家族機能と AC 傾向は、家族機能の「凝集性」が AC 傾向の「承認欲求」に正の影響を示したが、それ以外は負の影響を示した。つまり、仮説は概ね支持されたと考えられる。

仮説③について、家族機能は必ずしも自尊感情を経由しないものの、「凝集性」、「問題解決」、「コミュニケーション」が自尊感情に正の影響を示し、自尊感情が AC 傾向尺度のすべての因子に負の影響を示していた。つまり、この仮説も概ね支持されたと考えられる。

#### 第4章 考察

AC 者は「生きづらさ」を感じているとされるが、仮説①が支持されたことから、その感情的な側面が示された。つまり、支援の必要性が改めて確認されたと言えよう。

仮説②が支持されたことから、家族機能を改善することで AC 傾向を改善できる可能性が示された。つまり、家族療法等の適用によって、AC 傾向を改善し得ると考えられるが、必ずしも家族の協力が得られるとは限らない。また、支援の時点から過去に遡ることはできないため、この知見は AC の予防として位置づけることが適切であろう。したがって、支援には別の側面からの介入を検討することが現実的であると考えられる。

この点について、仮説の③が概ね支持されたことにより、自尊感情を高めることで AC 傾向を低くできる可能性がある。そして、それに伴って仮説①より、ネガティブな感情を弱め、ポジティブな感情を強めることができる可能性がある。すなわち、自尊感情を高める支援は、AC 傾向者に有効であると考えられる。

また、アダルトチルドレン傾向尺度の各因子から POMS2 の各因子への関係のパターンより、AC 者を①ネガティブ感情が高く、ポジティブ感情が低い「孤独・自責」タイプと、②ネガティブ感情もポジティブ感情も共に高い「コントロール欲求」タイプ、そして、③「友好」のみが高い「承認欲求」タイプの3タイプに分類できる可能性が考えられる。さらに検討を重ねることで、支援をタイプ別に発展させ、適用する手がかりが得られるかもしれない。

## 引用文献

- Black, C. (2020). *It Will Never Happen to Me: Growing Up With Addiction As Youngsters, Adolescents, and Adults*. 3rd edition. Central Recovery.
- 千葉有希子・小林敦子 (2003) . 家族機能とアダルト・チルドレン的傾向に関する実証的研究 東京成徳大学臨床心理学研究, 3, 5-20
- Hall, C. W., & Webster, R. E. (2007). Multiple stressors and adjustment among adult children of alcoholics. *Addiction Research & Theory*, 15(4), 425-434
- Heuchert, J. P., & McNair, D. M. (2012). POMS 2®:Profile of Mood States 2nd Edition Tonawanda: Multi-Health Systems Inc. (横山和仁 (監訳) (2015). POMS2 日本語版 マニュアル 金子書房)
- 平山妙子 (2020) . 家族の行方 : 希薄関係な娘たちへ遺す親の心情 名古屋経営短期大学 紀要, 61, 75-89
- 石黒良和・榎本玲子・山上精次・藤岡新治(2016). 援助要請と生活適応感の関連性 : 自尊心と他者軽視の観点から 専修人間科学論集 心理学篇 6, 31-40
- 神奈川県(2016). かながわの教育がめざすもの (かながわ教育ビジョン第2章) <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4816/p165097.html> (2021年1月10日アクセス)
- Krauss, S., Orth, U., & Robins, R. W. (2020). Family environment and self-esteem development: A longitudinal study from age 10 to 16. *Journal of Personality and Social Psychology*, 119, 457-478. <http://dx.doi.org/10.1037/pspp0000263>
- Leary, M. R. (1999). The Social and Psychological Importance of Self-Esteem In Kowalski, R. M., & Leary, M. R. (Eds.). (1999). *The social psychology of emotional and behavioral problems: Interfaces of social and clinical psychology*. American Psychological Association. (リアリー, M. R. (2001) . 自尊心のソシオメーター理論 コワルスキ, R. M. ・リアリー, M. R. (編著) 安藤清志・丹野義彦監訳 臨床社会心理学の進歩—実りあるインターフェイスをめざして— 北大路書房)
- 茂木千明 (1996) . 家族の関係性に関する一研究—大学生の子どもの観点から— 家族心理学研究 10(1), 47-62
- 諸井克英 (2007) . 家族機能認知とアダルト・チルドレン傾向 同志社女子大学学術研究年報 58(1), 85-92
- 信田さよ子(1997) . アダルト・チルドレン—私の物語をつくり直す— 日本家政学会誌 48(9), 823-828
- Rosenberg, M. (1965). *Society and the adolescent self- image*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- 笹野友寿・塚原貴子 (1998) . 大学生の精神保健に関する研究—機能不全家族とアダルト・チルドレン 川崎医療福祉学会誌 8(1), 47-53
- 沢瀬直太朗(2018). アダルトチルドレンから自由へ Amazon Services International, Inc. <https://www.amazon.co.jp/アダルトチルドレンから自由へ-沢瀬直太朗-ebook/dp/B07FBVYWTW>
- 柴田啓文 (1998) . アダルト・チルドレンをめぐる諸概念の検討 四日市大学論集 11(1),

137-149

園田雅代 (2007) . 今の子どもたちは自分に誇りを持っているか-国際比較調査から見る日本の子どもの自尊感情 児童心理 61, 2-11

Tony, A. (1978). Laundry List | Adult Children Of Alcoholics & Dysfunctional Families. [online] Adultchildren.org. <https://adultchildren.org/literature/laundry-list/> (2021年1月12日アクセス)

Woititz, J. (1990). *Adult Children of Alcoholics*, Health Communications Inc.

山本真理子・松井 豊・山成由紀子(1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.